

日々の診療や勉強お疲れ様です。

11月に入り、木々の葉が色づき始め、ゆっくり紅葉狩りを楽しみたい今日この頃です。師走に向けて忙しい日々ですが、自分の時間を確保しながら、また体調をくずさないように、頑張っていきましょう。

さて、今回の小児科通信でも、医局の行事、医局員の先生方の学会参加予定に加え、毎月医局員の先生お一人ずつから若い先生方へのメッセージを掲載しています。どうぞ気軽な気持ちで目を通してくださいね。

～10月の医局行事報告～

10月8日 バイオジェンによるルンバール君実演会

薬の説明会(バイオジェン・スピラザ®)の際に、ルンバール君を使用して腰椎穿刺の実演会を行っていただきました。実際に穿刺している感覚に似ており、練習した研究医の先生も、本番の腰椎穿刺を上手に実施することができました！



慎重に 慎重に…

本田先生、さすがです！



10月10日 八幡小児科会講演会

深野教授が、「小児科の実臨床に用いられるゲノム医療」についてご講演されました。

10月19日 学生ボランティアによるイベント

医師祭前に、医学部の学生さんが小児科病棟でイベントを開催してくれました。巨大な折り紙の実演やダンス、クイズなど、子ども達と一緒に参加できる様に工夫されていました。

学生さん、ありがとうございます！

～10月の学会報告～

10月11-13日（国立京都国際会館）

第86回日本血液学会学術集会

血液・腫瘍班の水城先生が、Oralで発表しました。
深野教授も、新幹線と鈍行列車を使い継ぎ、
駆けつけてくださいました！



10月10-12日（パシフィコ横浜）

第57回日本小児内分泌学会学術集

内分泌班から齋藤先生、桑村先生が発表しました。
学会後には横浜中華街でお食事会をしました。

学会後のお食事会も、学会の楽しみの一つですね



～11月・12月の医局内イベント

11月11日 18時～ 内分泌班セミナー（テーマ「当院における拡大マススクリーニングの現状 ～ライソゾーム病を中心に～」）

11月28日 18時～ 学位取得報告（川村先生、水城先生）

★クリニカルカンファレンスとセミナーはZoom参加出来ます。参加してみたい方は、桑村（maeguchi06@med.uoeh-u.ac.jp）または守田（h-rita@med.uoeh-u.ac.jp）までご連絡ください。

～11月・12月開催予定の学会～

11月16-17日 第56回日本小児感染症学会（出島メッセ）

参加者：○山口 定信、川村 卓

11月16-17日 九州小児科学会（熊本）＋ 九州小児科野球大会開催！

参加者：○村川 沙織

12月13-15日 第66回日本小児血液・がん学会学術集会（国立京都国際会館）

参加者：○宮本 智成、○守田 弘美

12月14日 第526回日本小児科学会福岡地方会

参加者：○照喜名 従真、桑村 真美（座長）、福田 智文（座長）

～医局員からのメッセージ～

学校心臓検診について

こんにちは。医師 7 年目、小児科医として 5 年目になりました、眞鍋舜彦です。私は 2022 年 10 月から 1 年間、JCHO 九州病院で小児循環器を中心に学ばせていただきました。産業医科大学小児循環器は、清水医師が中心となって診療を行っていましたが、現在は JCHO 九州病院で勤務しており、未熟者ながら、私が引き継いでおります。今回は、経験した症例ではなく、表題の通り、学校心臓検診の実際について、特に八幡地区での流れを紹介しようと思います。

現在、学校保健安全法に基づき、小学校、中学校、高等学校の各 1 年生では学校心臓検診を実施するよう義務付けられています。循環器病（心疾患）の予防、早期発見、適切な管理、心臓突然死の予防を目的としています。全国的に 1 次検診、2 次以降の健診、管理という流れになっており、2 次検診以降の流れは各自治体・地区医会が定めたものに沿って行われます。1 次検診は、小 1、中 1、高 1 に毎年行うことになっており、心臓検診調査票の記載、学校医診察、心電図検査が行われます。その内容を心電図判読委員の医師が判定し、精密検査が必要であれば、2 次検診を受診します。八幡地区の場合、2 次検診は集団的検診であり、八幡医師会医療・福祉センター（北九州市立八幡病院の隣）で、小児循環器科医師による診察、心電図、必要に応じて心臓超音波検査や簡易の運動負荷心電図検査を行います。八幡地区では、2023 年度から判定マニュアルを導入し、それに基づいて、フォローアップの要・不要、専門機関での精密検査の要・不要を判断します。その結果、精密検査が必要な場合、3 次検診として当院などの専門医療機関を紹介受診します。

学校心臓検診の目的は、循環器病（心疾患）の予防、早期発見、適切な管理、心臓突然死の予防であり、1 次検診は多数の健康者のなかから、ある疾患またはその疑いのあるものを効率よく選び出す方法であることから、私が主に関与する 2 次検診では、真に疾患、症候群を有する児はそれほど多くありません。しかし、中には QT 延長症候群や Brugada 症候群などの診断に至るケースもあり、非常に緊張感のある診療内容です。また、2 次検診で精密検査が必要と判断した児が当院を受診した際、その後の経過もわかるので、非常に良い経験をさせていただいています。

今回紹介した学校心臓検診以外にも、循環器病（心疾患）について、お困りのことがあれば、いつでもお知らせください。よろしく願いいたします。

小児科通信に関してご意見や感想があれば桑村
(maeguchi06@med.uoeh-u.ac.jp) または守田
(h-rita@med.uoeh-u.ac.jp) までご連絡ください。

～次号もお楽しみに～